

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆ 2009年1月31日、東方会館二階会議室において2008年度第5回大会委員会が開かれた。主な課題と審議の様子は、以下のとおりである。

1. 2009年度春季大会(千葉県・明海大学)の運営について

(1) 大会準備の進捗状況

開催校の会場図と当日タイムテーブルを確認した。その中で常任理事会から提案のあった、学会賞・奨励賞受賞者講演会を大会1日目に行う案は却下され、受賞1年後3月の総会で行う案を逆提案することに決定した。

(2) 発表者の選考

審議の結果、口頭発表23件、ポスター11件、パネルディスカッション7件、デモンストレーション5件の採用を決定した。また、この結果を踏まえ、不採用となった申請者に対してコメントを書く担当の委員および発表会場割り振り案を作成する担当の委員を選定した。なお、査読委員から発表において発表者に注意事項を示す必要のあるもの9件が指摘され、その注意事項を書く担当の委員も選出した。

(3) ポスター・デモ会場での禁止事項

ポスター発表・デモンストレーションの会場における禁止事項の了解確認、およびに発表者に対する事前の周知方法などを議論し、発表規定や発表者と事務局との間の連絡手続きについて改善の必要のあることが了承された。

2. 2009年度秋季大会以降の企画・運営について

(1) 事務局より秋季大会開催校の九州大学の視察報告があった。開催校実行委員の構成が紹介されたあと、開催校からシンポジウム企画として日本語能力試験を話題にする案を検討し、これを了承した。また、二日目の昼休み30分ほどで、「日本語教育能力試験」の改訂に関する説明会が行われることを確認した。

(2) 秋季大会では、シンポ会場を含む全会場の使用料が相当の高額になるという試算が出たために、補助金申請の必要性が了解され、九州大学、福岡市・福岡県などの公的機関への申請も検討するこ

とを了承した。

(3) 2010年の春季大会の開催校として早稲田大学、秋季大会の開催校として神戸大学の名前がそれぞれ挙がり、前者については川口委員長が、後者については奥田委員がそれぞれ関係者の意向を確認することを了承した。

3. 次期委員候補者について

次期委員候補者と現委員との顔合わせを、次回4月18日の委員会にて行うことを了承した。

(川口 義一)

● 学会誌委員会

◆ 3月7日(土)午後2時より早稲田大学において学会誌委員会を開いた。

1. 141号の進捗状況、142、144、146号の特集の進捗状況、次期委員および次期査読協力者、事務局態勢の交代などを報告がなされた。

2. 第4回林大論文賞授賞論文の決定、142号投稿論文の査読審査(条件採用10本、再投稿19本、不採用31本)、さらに、コラム「海外の学会から」に報告を掲載する学会の候補、英文論文における参考文献の書式、投稿規定の文言の一部修正について審議し決定した。

3. 論文の掲載が決定されて以降は、掲載号の発刊以前であっても、投稿者からの要望があれば論文掲載証明書を発行することとなった。

4. 平成22年度より学会誌が年3回発行に変更される可能性について議論した。

5. アカデミック・ジャパニーズ・グループからジャーナル発刊の希望が伝えられ、学会誌の中にSIGコラムのようなページを設ける案などについて議論された。

次回委員会(次期委員陪席)は6月6日(土)午後2時から行う予定。

(廣瀬 正宜)

● 研究集会委員会

I. 研究集会報告

平成20年度第10回研究集会(中国地区)

日時: 2008年12月20日(土) 13:00~17:00

会場: 山口大学

参加人数: 66名(会員38名, 一般28名)

内容: 11本

講演: 「海外の日本語教師はどのような専門性を身につけるべきだと考えているか」(縫部義憲)

12月20日、山口大学大会館にて第10回(中国地区)研究集会が開かれた。66名(会員38名, 一般28名)が参加した。午前中は3本、午後は2会場に分かれて8本、計11本の研究発表が行われた。第二言語習得に関する発表が半数近くあった。他

には、日本語教育事情、音声、文法、評価に関する発表などがあり、フロアとの意見交換も活発に行われた。最後に、広島大学大学院縫部憲憲教授による講演「海外の日本語教師はどのような専門性を身につけるべきだと考えているか」があった。各方面からの参加者が多く集まり、特に海外での日本語教師を目指す者にとって示唆に富む内容で、好評であった。(報告者：今井新悟)

II. 会議記録

◆平成20年度第9回研究集会中央委員会(3月19日)

1. 2009年度実践研究フォーラム(8月1・2日 早稲田大学東伏見キャンパス)の運営について

(1)発表者の選考

RT(ラウンドテーブル)の枠・内容を確認後、審議の結果RT17件、ポスター25件が採択された。

(2)採択通知の確認

採択通知にあたって、合わせて伝える注意事項を確認、また、不採用となった応募者に対してコメントを書く委員を決定した。

(3)パネルセッションの内容について

後半のパネルセッションにおいては日本語教育分野外の講演者(酒井朗氏)に記述・分析に関する講演と、フォーラムRT発表についてのコメントを依頼した旨の報告があった。

(4)今後の進め方について

発表者と連絡を取り、RTに向け進めていく。

(5)次回より、次期委員候補にも参加してもらおう。

2. 2009年度の中央委員会会議日程の決定

※次回の研究集会委員会会議予定

全体委員会：2009年5月23日

中央委員会：2009年5月28日

(堀井 恵子)

● 教師研修委員会

I. 研修実施報告

1. 短期集中研修「対話のための道具としてのCan-Do Can-doは学習者のためのもの?教師のためのもの?」

講師：長沼君主(東京外国語大学)

開催日：2009年1月10日(土)

場所：東京日本語学校

参加者：33名

2. オンラインIT研修「日本語教師のためのOn-Line IT講座 基礎編」

講師：畑佐一味(米国・パデュー大学)

開催期間：2009年1月19日～3月27日

参加者：19名

3. オンラインIT研修「日本語教師のためのOn-Line IT講座 活用編」

講師：中澤一光(台湾・元智大学)

監修：畑佐一味(米国・パデュー大学)

開催期間：2009年2月2日～3月27日

参加者：8名

4. 短期集中研修「未来の日本語学習環境を考えるワークショップ」

講師：山内祐平(東京大学大学院情報学環)

情報提供者：望月俊男(専修大学)、池田玲子(東京海洋大学)

開催日：2009年2月21日(土)

場所：東京大学福武ホール

参加者：38名

5. 日本語アトリエNKG第1回

「もっと知りたいCan-Do」

ゲスト：長沼君主(東京外国語大学)

開催日：2009年3月13日(金)

場所：日本語教育学会事務局会議室

参加者：16名

II. 2009年度の研修予定

1. 短期集中研修「日本語教師のための統計学入門—日本語教育実践の分析のための統計学—」(前半)

講師：黒沢学(東京電機大学)

場所：東京海洋大学

開催日：前半2009年4月19日(日)

定員：80名

2. 短期集中研修「『Digital Storytelling』手法を利用した日本語学習環境—明日の授業で使えるデジタル教材作成—」

講師：リチャード・ハリソン(神戸大学)、實平雅夫(神戸大学)

場所：神戸大学留学生センター

開催日：2009年5月16日(土)

定員：30名

3. 合宿研修「考える・伝える・学びあうII」

講師：横溝紳一郎(佐賀大学)、河野俊之(横浜国立大学)、二通信子(東京大学)、館岡洋子(早稲田大学)

場所：OVTA(海外職業訓練協会)

開催日：2009年8月8日(土)、9日(日)

定員：90名

4. 短期集中研修「大規模試験を見る目・現場に活かす力を養う—課題遂行能力の育成と測定に向けて—」

講師：伊東祐郎(東京外国語大学)、大隅敦子(国際交流基金)、畠山理恵(国際交流基金)

場所：東京国際大学(予定)

開催日：2009年10月24日(土)

定員：50名

5. 短期集中研修「日本語教師のための統計学入門—日本語教育実践の分析のための統計学—」(後半)
講師：黒沢学(東京電機大学)
場所：東京海洋大学
開催日：2009年12月13日(日)
定員：80名
6. 短期集中研修「専門日本語領域(仮称)」
場所：東京
開催日：2010年1月(予定)
7. 短期集中研修「教室活動のデザインⅢ」
場所：東京
開催日：2010年2月(予定)
8. オンライン研修「日本語教師のためのOn-Line IT講座1」
開催日：2010年1月～3月(予定)
9. オンライン研修「日本語教師のためのOn-Line IT講座2」
開催日：2010年2月～3月(予定)
10. 日本語アトリエNKG
場所：日本語教育学会事務局会議室
開催日：原則として、3月、6月、9月、12月に実施予定

◆「日本語教師研修コース」についての詳細は日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページをご覧ください。2009年度の研修については詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載していきます。
<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

Ⅲ. 委員会での討議事項

1. 第6回教師研修委員会(2009年1月17日)
 - (1)各研修の実施報告
 - (2)今後の教師研修について
 - (3)2009年度研修計画と研修詳細

※次回の教師研修委員会会議予定
2009年4月25日(土)

(嶋田 和子)

● 試験分析委員会

- 第7回試験分析委員会 2009年1月17日(土)
1. 2008年12月に実施された日本語能力試験について報告がなされた。
 2. 委員の交替について話し合われた。
 3. 『平成19年度(2007年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(2章)について検討された。
 4. 『平成19年度(2007年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の要約原稿について検討さ

れた。

5. 合同委員会について出席者より報告がなされた。
6. 『平成19年度(2007年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿提出の日程と方法が確認された。

(野口 裕之)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2009(平成21)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店(普)130-880757

○現金書留

銀行の支店の統合により、「みずほ銀行」への会費振込先が上記のとおり変更になりました。ご注意ください。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」の運用を開始いたしました。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)をご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552

E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp